

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称RAC）は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成12年9月に設立され、平成18年1月現在、133団体が加入しています。

今回は直近の活動にポイントを絞り途中経過報告いたします。

【RACスキルアップ研修会】

川の体験活動の指導には現場での瞬時の判断を求められます。特に子どもの体験活動では、事故が起きないように準備計画をすることが大前提ですが、「いざ」というときに的確に判断・行動することがもとめられます。今年、環境の違う3ヶ所①「雪山（福井県・日野川）」、②「河口城（千葉県・小櫃川）」、③「流域全体（熊本県・緑川）」で、それぞれの地域の特色を生かしたスキルアップ研修会を実施しました。



特に福井県の雪山での研修会では、日本山岳連盟で雪崩の講習等を多数勤める北川氏より、雪崩の起る原理についてレクチャーを受けるなど、都心の川で活動しているメンバーには非常に有難い講習となりました。また、緑川では、流域全体をフィールドとしたことで、上流・中流・下流それぞれの川の変化と、それぞれの地域で川と密着した暮らしを体感することができました。

【RACフォーラム】（H18.3.5,6／東京都）

川の指導者には、特に子どもを楽しく安全に水辺へ誘うことを期待されていますが、指導者として活躍するためには、安全の確保のほか、指導技術や人間性、自然に関する知識、プログラムの展開方法など、様々な要素が求められています。また、継続的にプログラムを展開していくためには、周辺の学校や企業との連携も含めて経営的な能力も必要となっています。

今回で4回目となるフォーラムでは、「指導者の法的責任」について現役の弁護士の講義等を導入。また、助成金の取得のノウハウや、小学校でどのように河川での体験活動を導入するかを元校長先生から講義を受けました。また、最後には参加者同士が2人1組となり、それぞれの体験活動の成功及び感動談を話し合い、最後に全員でシェアするなど、参加者約40名の感動を持ち帰る機会となりました。



水辺で子どもの体験活動をするものの目的の一つは「感謝の念」を教えることでもあります。水辺での楽しい体験に「感動」し「感激」を覚えることで、初めてそれを与えてくれた大人や地域社会、先代からの歴史の継承に「感謝」の気持ちを持つようになるといわれています。

川と人とが共存できる暮らし、つまり「川に学ぶ社会」に、川での多くの感動を増やすことで、一歩でも近づくことが出来れば幸いです。

《NPO法人川に学ぶ体験活動協議会》

東京都中央区入新川2-10-6 カヤヌマビル703号
TEL.03-5542-7577 FAX.03-5542-7577
<http://www.rac.gr.jp/>